

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2390400238		
法人名	ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家栄生		
所在地	名古屋市西区名西一丁目17-22		
自己評価作成日	平成31年2月26日	評価結果市町村受理日	令和元年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2390400238-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2390400238-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	平成31年3月8日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者さんの意思を尊重し、その立場になって利用者さんが安全且つ安心して過ごせる生活の場となるように、  
毎日を楽しく笑顔あふれるように努めている。  
寄り添えるケアを実践しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

大通りから少し入った静かな住宅街の中に事業所がある。事業所の玄関横には氏神様の小さな社があり、町内の守り神として地域の人たちが大切にお世話をしている。お参りに来る人と入居者との楽しい交流の場ともなっている。1階に小規模多機能型居宅介護事業所があり2階に1ユニットのグループホームがある。入居者が地域と繋がりがながら暮らし続けられるように事業所自体が町内会に加入し、地域の豆まきや祭りに参加したり、同事業所内の小規模多機能型居宅介護事業所で月1回行われるオープンカフェにおいて地域との交流を大切にしている。運営推進会議は近くにある同法人のグループホームも含め3事業所と合同で行われ、地域や行政、入居者や家族など多くの参加を得ている。「皆が楽しく、最期をここで過ごせてよかった。」と入居者や家族から思ってもらえるような温かい場所にしていきたい。また、「人を大事にする」を職員皆が一番に心がけ、力を合わせてケアに努めている。入居者は明るくゆったりとした居間でテレビを観たり、談笑したり、ソファでブランケットをかけた心地よい仮眠をとるなど、それぞれが穏やかな時間を過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の経営理念である『人を大事にする』を一番に心がけている。	法人の9つの経営理念は事務所に掲示されている。スタッフはポケット小冊子を携帯し理念の確認が必要な時は利用している。中でも「人を大事にする」が一番に心がけ、最大のサービスではなく最高のサービスを目指してケアに努めている。日々の申し送り等で、疑問や問題などがあれば話し合い、解決に向けて共有しケアに活かしている。	法人の理念を基に、グループホーム独自の理念を職員間で話し合って作成し、より具体的なケア実践につなげることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	オープンカフェの開催を毎月行い地域の方々との交流を深めている。町内の行事にも利用者さんと共に参加をしている。	町内会に加入し、回覧板を事業所にも回してもらえるように依頼している。運営推進会議等で地域情報を得て町内行事や清掃活動に入居者と共に参加している。併設の小規模多機能事業所で毎月行われるオープンカフェで地域ボランティアと交流をしたり、日々の散歩や買い物などでも地域の方々との交流を深めている。中・高校生の体験学習や保育園との交流も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員、町内会長さんのと殻をお借りして交流を持てるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の開催で実績報告、行事報告、相談を受けながらサービスの向上に努めている。	運営推進会議は年6回、同地域の法人3事業所と合同で開催している。入居者や家族、近所の方、町内会長、民生委員、老人クラブ会長、いきいき支援センター職員など多くの参加を得ている。実績報告や行事報告を行い、参加者からの意見や提案はその場で協議したり、カンファレンスで協議しサービス向上や運営に活かしている。身体拘束適正委員会報告も行っている。	運営推進会議記録は次第と財務報告、入居者の行事や生活の写真のみの記載となっている。参加者からの意見や提案等、具体的な内容の明記がなく分かりにくい。議事録として保存したり、欠席した家族等に報告する場合、協議事項が伝わるかの不安が否めないため、記録方法や内容のまとめ方等の改善を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政への認定書類などの提出、担当者からの指導を受けるようにしている。	認定書類や更新の代行業務などで行政へ出向き、市担当者から法令に関する変更事項等の指導やアドバイスを受けたり、情報交換に努めながら協力関係を築いている。行政主催の研修や講演会には出来るだけ都合をつけて参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ない場合を除き拘束をしない方向で職員と話し合いながら努めている。	法人としてマニュアルを整備し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。年1回、法人研修会があり、欠席者はDVDを利用し受講し、報告書を提出する等、全員が身体拘束に対する理解の確認を図るようにしている。言葉の暴力やスピーチロック等、日々の申し送りやミーティングで事例をもとに話し合い確認しながらケアを行っている。身体拘束適正委員会を設け、運営推進会議で報告をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について学び見過ごすことのないようにミーティングにおいて意見を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学びながら必要な時には支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関してご家族にも理解をして頂けるように説明をして努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはご家族に出来る限りの要望を聞きられるように話の場を設けている。	日常ケアの中で入所者からは色々な意見を聞き、家族からは面会時や行事、運営推進会議などで意見や要望を聞き、記録をしている。意見や要望はその場で話し合ったり、ミーティングやカンファレンス等で話し合い、情報を共有して運営に反映している。意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケートを実施して直接対話をするように心がけている。	会社としてアンケートを実施したり、個人面談により従業員個々の意見を引き出したりして人事考課を行い、将来の目標や意見要望を聞く機会を設けている。管理者は、日々の申し送りや毎月のミーティング時に職員からの意見や提案を聞き運営に反映させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	従業員のスキルアップ、向上に努めるように目を向けてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て研修を受けられるようにしてスキルアップ向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との勉強会の場に参加できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉に耳を傾ける姿勢を持つようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安を抱えているであろう課題に傾聴し、信頼関係を構築できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じた支援サービス利用を見極めて支援に心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方通行にならないよう共生できる支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の心を汲み取りご家族にも安心して頂けるようサポートしていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた事柄時間を大事に考えていく。	フェイスシートなどから入居者のこれまでの生活歴を把握し、本人が大切にしてきた人や場所、物事の関係が継続できるように支援している。地域の小学校の運動会や八坂神社のお祭りに出かけたり、面会に来られた方の対応や電話の支援、絵手紙や年賀状の支援も継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとり孤立してしまわないように見守らせて頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	常に相談窓口を拡げ、いつでも寄り添えるように努めていくようにする。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向に寄り添えるように努める。	入居者との会話は傾聴する姿勢を忘れず、ひとり一人の意向や希望を把握するように努めている。入浴時などリラックスした時に思いが聞けるような支援を工夫している。意志疎通が困難な場合でも、表情等から思いをくみ取ったり、家族から情報を得たりして本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、重ねてきた経験を大事にしていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く生活できるよう関係者の方々と相談、話し合い寄り添える支援を行う。	日々の申し送りや毎月のカンファレンスで情報交換をし、3ヶ月毎のモニタリングを経て6か月に1回、介護計画の見直しを行っている。ミーティングで問題や課題があれば随時見直しをしている。入居者や家族からは折に触れ情報を集め、医師や看護師の意見も参考にしながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画、個別記録に沿って職員が情報共有して支援していく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の状況に対応して柔軟な支援、サービスの向上に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	おひとりでの生活の地域資源を把握に努め安心安全な生活ができるように努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿った医療機関に受診して頂き、適切な治療を行えるように支援していく。	入居時にかかりつけ医か提携医かの希望を聞いている。提携医による内科の往診が月2回、歯科は月1回、眼科も希望により往診が可能である。他の専門医受診は基本的に家族の協力を得ている。週1回の訪問看護があり、健康管理に努めている。健康状態に変化があった場合は、訪問看護師や主治医に相談し協力医療機関とも連携して速やかで適切な医療提供に努めている。24時間医療連携が取れる体制が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携し適切な指示のもとで支援していく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護サマリーの提供や面会にてなるべく早期に退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期においても説明させて頂いている。	入居時に重度化した場合や終末期、看取りについての説明と指針を明らかにしている。重度化する可能性があれば早い段階から家族へ報告し、主治医や訪問看護師を交えて話し合いを重ねて方針を再確認している。看取りの場合、経験を踏まえた話し合いや訪問看護師の協力を得て研修をし、施設で出来る最善の支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が応急処置、初期対応できるよう研修を重ねている、		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立て防災訓練、避難訓練を行っている。	防災訓練計画を立て消防署へ提出し、年2回防災訓練を実施している。火災や水害、地震を想定し、消防設備業者の協力を得て、消火訓練や避難訓練を行っている。AEDの訓練も消防署の職員の指導の下に実施している。年1回行われる地域の防災訓練に参加している。地域との協力体制については模索検討中である。備蓄は、入居者や職員分を含め、水や食品、簡易トイレなど3日分準備している。	予期せぬ災害が報道されている昨今でもあり、事業所を取り巻く地域環境も防災に関しては厳しいものが伺える。消防署や地域、職員間でしっかり話し合い、いざという時に、迷うことなく職員が動ける体制を調えられることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重、プライバシーにも配慮している。	基本的に人生の先輩としての心構えを職員間で共有しながら日々のケアに努めている。特に言葉がけには留意し、自分が言われて傷つくような声掛けをしない工夫など人格やプライドを損なわない対応に努めている。排泄支援の尿漏れ等の確認は部屋で行い、声掛け時もプライドを傷つけないように小声で促すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おひとり個々のペースを乱さぬように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	らしい身だしなみ、身繕いができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に楽しみを感じられるように好物を聞き取ったりして提供するようにしている。	食材やメニューは業者委託となっているが、同じ食材でも入居者の好みや希望を取り入れてアレンジすることもある。入居者の能力に応じて、調理や盛り付け、後片付け等も職員と一緒にしている。職員も同じ食卓を囲むことにより、入居者の見守りをする中で、喫食状況や嗜好など把握しケアに活かすようにしている。ホットケーキやおはぎなどの手作りおやつや外食、寿司や丼物の出前行事を楽しむ支援もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おひとりの状態に合わせた食事バランスを保った提供に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	清潔保持に気を配り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を取り状況に応じリズムでお声かけをしている。	排泄状況はチェック表を確認し、個々の排泄パターンを把握したり、しぐさや表情から察して声掛けをしている。リハビリパンツや尿取りバットも利用し、トイレでの排泄が維持できるように支援している。便秘予防では水分を摂ったり運動などを促し、出来るだけ自然排便が出来るよう支援している。必要時は医師や看護師に相談し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄記録申し送りにて確認しコントロールさせて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に沿って声掛け、入浴を楽しんで頂くように努めている。	入浴は最低でも週2回としているが、入居者の希望を入れたり、必要時は適宜入浴をしている。湯は一人ひとり入れ替え清潔にし、ゆず湯や菖蒲湯など季節の湯を楽しんだり、毎月1回温泉週間があり、全国各地の温泉浴剤を楽しんでいる。冬季のヒートショック予防等浴室環境を整えることにより、入浴拒否の方への声掛けや誘いやすさの支援につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じて安心して眠って頂けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬効果を把握して適切な支援ができるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や暮らし方を考え楽しんで気分転換できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状況にあわせ安心して外出できるように支援している。	天候を見ながら、ほぼ毎日散歩に出かけている。歩ける人と車いすの人でベアで出かけた時、入居者の希望で食品や衣類の買い物を楽しむこともある。年間計画を立てているが、その時々入居者の状況や希望によって柔軟に外出支援を実施している。季節の花見で東谷山フルーツパークや庄内緑地公園、ノリタケの森に出かけたり、紅葉狩りにも出かけている。家族の協力を得て外泊やドライブにも出かける方もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おひとりの希望に沿えるような買い物支援をさせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その時に応じて電話や手紙、連絡方法を利用して頂く		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は居心地良いスペースとなるように心がけて支援させて頂く。	リビングや廊下の天井が高く明るい雰囲気のある共用空間は、空調管理され臭いや音など不快を招くものに留意している。食堂と居間がワンフロアになっており、入居者の動きや気配が一目で見渡せる様になっている。居間の壁面には職員と共に作成した季節の飾り物や100歳のお祝い色紙、入居者の得意な塗り絵などが飾られ、温かみを感じられる。ソファや椅子など団らんが出来る工夫がされている中で、入居者は仲良し同士談笑したりテレビを観たり、ソファでゆっくりしたり、それぞれのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人おひとりの居住空間を作れるように支援させて頂く。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物を配置して安心していただけるように努める。	居室は家族や入居者と相談しながら、使い慣れた物入れや小物を持ち込み、写真や自作の作品を飾って居心地の良い空間づくりを工夫している。つまづき予防のために物の配置に留意したり、清潔保持に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な物、障害を妨げて安心安全な空間を作っていくように心がける。		